

# 行政視察報告書

参加議員	木下靖、奈良祥孝、竹山美虎、工藤健
調査期間	令和6年10月7日（月）～令和6年10月9日（水）
調査先 及び 調査事項	①山形県山形市 山形市ラーメンの日について ②山形県白鷹町 白鷹町まちづくり複合施設について

## 視察概要

■ 調査先① 山形県山形市

■ 調査事項 山形市ラーメンの日について

■ 調査内容

1 調査日

令和6年10月8日（火）

2 調査先 山形市

面積 381.58 km<sup>2</sup>

人口 241,248人（R6.3.1推計）

世帯数 103,911世帯（       "       ）

3 調査目的

日本全体が人口減少の流れの中であって、ほとんどの地方都市においては生き残りをかけてその対策に取り組んでいる。各自治体ともそれぞれの特色を生かして、観光振興や移住・定住のための施策を講じている。その中で全国47都道府県全てにご当地ラーメンがあり、もはや日本の国民食ともいえるラーメンを地域おこしのブランドとして設定した、山形市の意図とその戦略について知ることは、必ずや本市においても生かせるものと考えたのが、今回の視察経緯である。

○なぜラーメンか？一食当たりラーメン消費額全国1位だから。

①そば屋のラーメン

関東大震災を契機に関東地方の料理人が多数、山形に疎開して来た。当時、飲食店はそば屋くらいしかなく、そば屋で働いた関東からの料理人がラーメンを作るようになり、また古くからある出前の文化によりラーメンが市民に広まっていった歴史的背景がある。

②冷やしラーメン発祥の地

山形市の栄屋本店が、全国に名高い冷やしラーメンを1952年に初めて作った店である。以来、山形市では夏の暑い時期ほどラーメンが売れるという。1年を通してラーメンが食されることの消費額拡大に対するアドバンテージは大き

い。

### ③多種多様なラーメン

強いて「山形のラーメンとは？」と聞かれれば牛骨しょうゆラーメンになるかもしれないが、実情はそれぞれのラーメン職人が作る独自のラーメンが主流であり、チェーン店は少ないのが山形市の特徴である。しょうゆ・みそ・塩・煮干し・豚骨その他多種多様なラーメンが共存しているのが山形市である。

### ④しょうゆやみそ、製麺所のクオリティの高さ

しょうゆやみその製造技術に加えて、少量多品種生産をいとわぬ製麺所の存在が、各職人たちの独自のラーメン作りを支えている。

### ⑤各店舗のたゆまぬ努力

一人親方的な職人が多く、オーナー自身が厨房に入ってラーメンを作っている。自分の味を出すためにたゆまぬ努力を重ねて唯一無二のラーメンを作り出している。

以上が1世帯当たりラーメン消費額全国1位の理由であると考えられる。

## ○政策提案チャレンジ事業

若手職員で部署横断のプロジェクトチームを結成し、政策立案し、市長・副市長にプレゼン（令和3年度）した結果、提案事業が全て採用され、事業化されることになった。（令和4年度12月補正）

## ○提案された事業

- ①ラーメン名刺の作成
- ②ラーメンDAYの制定
- ③ラーメンDAYイベントの開催
- ④芋煮の大鍋を活用したラーメンの振る舞い
- ⑤やまがたラーメンの情報発信

「ラーメンの聖地、山形市」を創る協議会

令和3年総務省家計調査において、8年連続1位であったラーメン消費額が2位に陥落したのを契機に、危機感を抱いた地元ラーメン店24店舗が設立し、150を超える関連事業者が参加。行政とタッグを組んでラーメンにおけるまちおこしを強力に推進していくことを確認。これら官民挙げての取組が、全国のマスコミからも注目を浴びることになり、さらなる盛り上がりにつながる。

## ○「ラーメンの聖地、山形市」を宣言

新潟市から首位を奪還した翌日（令和5年2月8日）、この日を山形市のラーメンの日として制定する。

地域ブランド戦略としてのラーメンでの地域おこしは、単なるラーメンの日

制定で完結するものではない。その事業の具体例を挙げれば、

①ラーメン名刺の作成

山形市内のラーメン店を紹介するためのポータルサイトを構築し、サイト内に名刺テンプレートをダウンロードできるページを構築する。これにより、誰でも推しのラーメン提供店のデザイン名刺をダウンロードし、作成することができる。(印刷ロット 100 枚)

②ラーメンDAYイベントの開催

ラーメンを通じた地域経済活性化を目的として、令和6年2月1日から11日間、「山ラー」フェアを開催。

③芋煮の大鍋を活用したラーメンの振る舞い

ラーメン用のずんどう鍋と異なり、芋煮用の大鍋ではお湯の蒸発が早い、麺を上げるタイミングが難しいなど課題が多く、今後さらなる検討が必要。

④やまがたラーメンの情報発信

やまがたラーメン公式インスタグラムを開設し、やまがたラーメンの情報やラーメンプロジェクトの進捗状況を発信。

民間では山形新聞が、ラーメン消費額日本一獲得の際に号外を発行。山交ハイヤーが車内広告を掲示、ラーメンガチャ（1回 500 円）の作成、ユニクロ店舗内での広告など。

4 視察の感想

一口に地域ブランド戦略と言っても「〇〇の日」を定め、行政がイベントを立ち上げるだけでは一過性のものに終わる可能性は高い。民間事業者の熱い思いは必須であり、官民が強力に連携することで継続性と地域ブランドとしての全国発信が可能になるのだと認識した。

本市においても自治体としての生き残りをかけた取組が必要となるが、数多ある地域の特色の絞り込みと、官民が一体となって推進していける地域ブランドを発信していく必要があると強く感じた。

## 視 察 概 要

■ 調査先② 山形県白鷹町

■ 調査事項 白鷹町まちづくり複合施設について

■ 調査内容

調査日：令和6年10月9日（水）

調査先：白鷹町まちづくり複合施設

### 1 白鷹町の概要

山形県南部置賜盆地の北部に位置し、総面積は157.71km<sup>2</sup>。町の中心を南北に最上川が流れ、西は朝日連峰、東は白鷹丘陵に向けて盆地が形成された町。人口は12,890人で、農業・工業・商業（観光）が主な産業である。紅花・アユ・ソバが有名。

### 2 木を活かした町づくりの背景と経緯

かつて、白鷹町は四方を山に囲まれた林業の町であった。平成25・26年の豪雨災害により甚大な被害を受けた。過去の災害は河川の氾濫による被害であったものが、最近では局地的豪雨による山腹崩壊、流木流出という大規模災害につながる事態となっている。この災害の性質の変化を契機に、白鷹町では、森林整備の重要性を再認識し、町民の安心・安全のためには、森林整備と循環システムの構築が必要との考えに至った。

その後、町民代表者や関係者による検討会を行い、「川上では植える・育てる・伐採する・適切に使う」、「川中では製材工場・集成材工場等の建設」、「川下では公共施設や住宅などに地産材を使用したり、木製品の開発・木質バイオマスを利用する」など緑の循環システムを構築することとした。

このことにより、最盛期には20数社あった製材所が、当時2社という林産業の衰退に歯止めがかかり、産業として再生する大きなポテンシャルを見出した。今も、定期的に町民や関係者による検討会を継続している。

### 3 まちづくりに木（森・山）を生かす

#### （1）具体的な取組として

- ①緑の少年団活動のような子どもたちの育成に活用する取組（授業の一環・保護者も一緒に活動）
- ②木工製品の製作や販売をとおして木に親しむ取組（町産材のPR・産業と教育活動）
- ③木材資源として製造販売し、地域活性化を図る取組（建築材料・パルプ・バイオ燃料等）
- ④町内産材による木造施設の整備を行い、結果として建設関係産業の振興にも寄与

#### （2）町内産材による木造施設の整備状況

白鷹町では、まずは庁舎をとということで、白鷹町まちづくり複合施設（役場庁舎・公民館的コミュニティ機能・図書館等）、西置賜行政組合消防署白鷹分署を

建築し、その後、日本の紅をつくる町推進拠点施設、地域交流商業施設、鷹山地区コミュニティセンター、文化交流センターあゆむを整備してきた。

また、社会福祉法人が建築主体となり特別養護老人ホーム白光園、愛真こども園が建設された。さらに、国の補助(1/2)を受けて、製材・乾燥施設、チップ生産施設の整備も行われ、緑の循環システムは順調に進んでいる。

#### 4 白鷹町まちづくり複合施設の概要

白鷹町まちづくり複合施設は、設計時に町民ワークショップを開催し、施設計画に関する意見交換、町産材伐採等への町民参加など、町民とともに施設計画を進め、白鷹町スギ材活用等の理解を深めた。地域産材の特性と活用方法を知ること、それまで関心が低かった森林の重要性を認識するとともに、植林・育林・伐採・利用を繰り返す緑の循環システムの再構築に貢献。

令和2年度木材利用優良施設コンクールで内閣総理大臣賞受賞。

##### (1) 基本コンセプト

地域活性・地域林業復興・木材資源循環の契機となる施設

##### (2) 基本方針

- ・みんなが集まる施設
- ・施設の活動が町に広がる拠点
- ・町産材を最大限活かす
- ・町民参加による施設づくり

##### (3) 建築概要

- ・設計期間:2015年9月～2017年3月
- ・施工期間:2017年7月～2020年1月
- ・敷地面積:16,349.16 m<sup>2</sup>
- ・建築面積:3,815.03 m<sup>2</sup>
- ・延床面積:

【まちづくり複合施設】	4,558.52 m <sup>2</sup>	木造地上2階
【エネルギー棟】	74.52 m <sup>2</sup>	木造地上1階
【書庫棟】	183.41 m <sup>2</sup>	木造地上1階
【車庫棟】	241.25 m <sup>2</sup>	S造地上1階
【防災倉庫】	256.18 m <sup>2</sup>	S造地上1階

#### 5 調査報告

##### (1) 質疑の中で判明した事項

- ①平成25・26年に甚大な被害があった豪雨災害の原因は、密植が1つの要因と考えられる。(主伐・間伐・循環が大事)
- ②防災と地域活性化のためにも林業再生・森林整備を考えることが必要と考えた。
- ③白鷹町まちづくり複合施設の建設に当たっては、ファシリティマネジメントも意識し、公開のプロポーザル形式として進めたが、構造計算や強度設

計、建物敷地の高低差などにより地元業者は最終設計や建築まで大変苦労した。

④今は町民や子どもたちも巻き込んで、木工商品などの開発も行っている。

## (2) 現場を見て判明した事項

①議場は、議会休会中は中会議室として有効利用。

②庁内に和室があったことには驚いた。(住民から和室がほしいという意見があり、設置。お茶やお花のワークショップを頻繁に開催しているとのこと。)

③複合施設は、1つの建物に見えるが、実際は7つの棟の集合体となっている。(敷地内2mの高低差や強度計算と壁対策など、設計士は頭を抱えたらしい。)

④暖房は、バイオマス燃料(木質ペレット)をボイラーで燃焼させ、温水を庁舎に回しているとのこと。このチップボイラーの管理は、地元のチップ工場に、燃料の生産からメンテナンスまで全面委託しているとのこと。

## (3) 感想

- ・この日も、たくさん子どもたちが図書館を利用し、市民ラウンジでは住民が思い思いの時間を過ごしていた。今回、白鷹町まちづくり複合施設を視察をして、自分たちの町は自分たちでつくるという住民参加のまちづくりについて、改めて考えさせられた。
- ・今、国内では豪雪も含めて毎年のように様々な自然災害が発生し、防災・減災への備えが急務である。
- ・市民生活の安心・安全、持続可能なまちづくりは、青森市においても重要な課題である。
- ・青森市としても災害への備えをしつつ、財源の確保をしっかりと行うことを前提に、人口減少対策・産業の振興・市民の幸せ支援等、地域の特性を生かした住民参加型の政策立案・事業の展開をしなければならないと痛感した調査となった。